

第 1 回浜田市総合振興計画審議会 会議録

日時 平成 30 年 7 月 24 日(火)
午後 6 時 30 分～午後 8 時 15 分
場所 浜田市役所 (4 階) 講堂

[進行/会長]

◆ 開会 (午後 6 時 30 分)

政策企画課長	<p>定刻になりましたので、只今から第 1 回「浜田市総合振興計画審議会」を始めさせていただきます。</p> <p>本日は、お忙しいところをご出席頂きまして、誠にありがとうございます。</p> <p>本日の会長が決まりますまでのところで議事の司会進行を務めさせていただきます、地域政策部政策企画課長の岡橋と申します。よろしくお願いいたします。</p> <p>ここで資料の確認をさせていただきます。レジュメをご覧ください。資料 1～資料 6 については事前に送らせていただいております。本日のところで資料 7 別紙、資料 7 についてお手元の方へ配付させていただいておりますのでご確認ください。なお、終了時刻は午後 8 時を予定しておりますので、ご協力をお願いします。</p> <p>また、浜田市総合振興計画審議会の委員となっていただきます皆様への委嘱状でございますが、本来ですと久保田市長より皆様へ直接交付すべきところでございますが、時間の都合等により、お手元の資料に合わせて配付させていただいておりますので、ご理解をいただきますようお願いします。</p> <p>なお、委員さんの任期につきましては、平成 30 年 7 月 11 日から平成 32 年 3 月 31 日までとさせていただきますので、よろしくお願いいたします。</p> <p>それでは、開会にあたり近重副市長がごあいさつを申し上げます。</p>
<h3>1 副市長あいさつ</h3>	
副市長	<p>皆さん、こんばんは。副市長の近重でございます。開会にあたりまして、一言ごあいさつ申し上げます。委員の皆様方には大変暑い中、また、大変お忙しい中、ご出席をいただき、ありがとうございます。また審議委員の皆さんにおかれましては、平素より浜田市行政の推進につきまして、暖かいご支援をいただいておりますことをこの場を借りて厚くお礼を申し上げたいと思います。審議会委員の皆様には今まで、浜田市のまちづくり計画の最上位の計画であります第 2 次浜田市総合振興計画、浜田市まち・ひと・しごと創生総合戦略、また、浜田市定住自立圏共生ビジョンの 3 つの計画について直接関わっておられまして、この後の計画の進捗状況についても関わっていただくということをお願いをさせていただいております。この後、平成 29 年度の各計画の事業の進捗状況についてご説明をさせていただきますので、その取り組み状況について忌憚のないご意見をいただきたいと思っております。この計画の基本指標となっております人口動態について、非常に厳しい状況となっております。全国的に人口減少につきましては、浜田市だけではなく大都市を除けば同じような状況でございますが、この振興計画にしっかり取り組むことで、この減少の幅を少しでも縮めていければと思っておりますので、引き続きのご支援をいただけますよう、お願いを申し上げまして、開会にあたりましての挨拶とさせていただきます。本日はどうぞ、よろしくお願いいたします。</p>

〔委員・職員紹介〕

<p>政策企画課長</p>	<p>続きまして、本日の委員の出席状況の報告をさせていただきます。</p> <p>委員につきましては、昨年度の審議会から、人事異動などの関係から 5 名の方が変更となっておりますので、ご紹介いたします。お手元の委員名簿をご覧ください。はじめに、石央森林組合から、一<small>いっぽうし</small>法師様より代わられました渡辺<small>わたなべ</small> 寿<small>ひさし</small>様でございます。続いて、一般社団法人浜田青年会議所から、大迫<small>おおさこ</small> 様より代わられました森脇<small>もりわき</small> 様でございます。本日は遅れて参られるとのことです。</p> <p>続いて、金城自治区地域協議会から、小野<small>おの</small> 様より代わられました金口<small>かなぐち</small> 様でございます。続いて、旭自治区地域協議会から、馬場<small>ばば</small> 様より代わられました岡山<small>おかやま</small> 様でございます。弥栄自治区地域協議会から、三浦<small>みうら</small> 様より代わられました賀戸<small>かど</small> 様でございます。</p> <p>以上でございます。なお、時間の都合上、他の委員の皆様あるいは浜田市職員につきましては、お手元の名簿で紹介に代えさせていただきますのでよろしくお願いいたします。</p> <p>なお、本日の出席状況ですが、出席は 17 名、欠席は 8 名となっております。浜田市総合振興計画審議会条例で定めております会議の開催要件の過半数を満たしておりますのでご報告します。</p> <p>続きまして、この審議会の会長と副会長を選出いただきたいと思っております。お手元の資料 1 浜田市総合振興計画審議会条例をご覧ください。第 4 条会長及び副会長でございますが、「審議会に会長及び副会長 1 人を置き、委員の互選によりこれを定める」こととなっております。今回の審議会は、計画策定を行った委員が引き続き進捗管理についても携わるという趣旨のもと、審議会委員の 25 人中 20 人の方が昨年度と同じ委員となっております。昨年度同様に、会長には島根県立大学の林先生、副会長には同じく田中先生にお願いできればと思っております。これまでの経緯もよくご存じでいらっしゃると思いますので、円滑な審議が可能だと思いますが、皆様方いかがでしょうか。</p> <p>(委員の拍手)</p> <p>拍手多数をもってご承認いただいたということでございます。ありがとうございました。</p> <p>それでは、会長には林<small>はやし</small> 秀司<small>しゅうし</small>委員、副会長には田中<small>たなか</small> 恭子<small>ゆきこ</small>委員に決定いたしました。それではそれぞれお二人、席を中央に移動願います。加えて、ご挨拶の方をいただきたいと思っておりますのでよろしくお願い致します。</p>
<p>会長</p>	<p>皆さんこんばんは。改めまして、会長に選任いただきました林でございます。すでに副市長さん、岡橋課長さんから説明がありましたとおり、この審議会は浜田市総合振興計画、浜田市まち・ひと・しごと総合戦略、その策定に関わってまいりましたが、同時に進捗管理にも関わってということで、引き続き審議会が設置されてこの度改めて新しい任期の委員さんが選ばれて、本日出席されたということになるかと思います。特にまち・ひと・しごと総合戦略は進捗管理がずいぶん重要だと言われておりますし、同じように総合振興計画においても策定の段階から、いかに進捗管理していくかという議論がございました。やはり市政に関わる様々な施策の継続性・発展ということを考えるとしっかりこの仕事を行っていくことが大事なのかなと思っております。微力ながら会長の職に就かせて</p>

	いただきますので委員の皆様にはご支援にいただきますようよろしくお願いいたします。
副会長	失礼いたします。島根県立大学の田中と申します。本年度もよろしくお願いいたします。
政策企画課長	ありがとうございました。それでは、ここからは進行を林会長にお願いいたします。
2 議題 (1) 総合振興計画、総合戦略及び定住自立圏共生ビジョンの進捗管理について (2) 第2次浜田市総合振興計画前期基本計画及び浜田市定住自立圏共生ビジョンの進捗状況について (3) 浜田市まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗状況について	
会長	<p>それでは、議事進行を進めさせていただきますので、皆様のご協力をよろしくお願いいたします。</p> <p>次第の方をご覧ください。1番目の総合振興計画、総合戦略及び定住自立圏共生ビジョンの進捗管理というのがありますが、その下に目標値を上方修正する項目、3番目に第2次浜田市総合振興計画前期基本計画及び浜田市定住自立圏共生ビジョンの進捗状況について、4番目に浜田市まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗状況について、5番目に第2次浜田市総合振興計画前期基本計画の進捗評価について、それぞれ議題としては分かれておりますが内容が関連をいたしますのでここは一括で説明をしていただきまして、後ほど皆さんからご質問を賜りたいというふうに思っておりますがよろしいでしょうか。</p> <p>それではそのように進めさせていただきますので事務局から一括して説明いただきますようお願いします。</p>
政策企画課長	<p>それでは資料2をご覧ください。</p> <p>浜田市総合振興計画、定住自立圏共生ビジョン及び総合戦略の進捗管理について説明申し上げます。</p> <p>まず、第2次浜田市総合振興計画前期基本計画の進捗管理です。このことにつきましては、計画期間が平成28年度から平成33年度までの6年間で、今回2年目にあたり29年度の143項目の実績値につきましての内部評価を行ったところです。次に浜田市定住自立圏共生ビジョンの進捗管理についてですが、このビジョンについては32項目ありますがその成果指標の全てを総合振興計画から抽出していますので同じ進捗評価となっています。続いて浜田市まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗管理です。この計画期間は平成27年度から平成31年度の5年間であり、これには総合振興計画と重複するKPI51項目がございますが、これについては同じ進捗評価となっています。また、地方創生推進交付金を活用した事業につきましても併せて検証することとなっています。続いて裏面をご覧ください。(1)進捗管理体制の内部体制ですが、市長をトップとします人口減少問題対策本部において内部評価を確認しているところです。また、(2)外部体制については、本審議会にて検証・審議をしていただくこととしております。5の進捗管理スケジュールにつきましては、この7月17日に第1回人口減少問題対策本部会議で内部評価を行っており、本日の審議会でご意見を賜った後、8月に議会報告を行うこととしています。資料2については以上です。</p> <p>続いて資料3をご覧ください。目標値を上方修正する項目ですが、今回2年目、</p>

あるいは3年目の進捗評価を迎えています。その目標値を既に達成した、または達成しそうな項目を記載しています。このことについては、昨年度の審議会におきましても委員さんの方からご意見いただいたところでもあり、ご覧の15項目につきましてはそれぞれに上方修正を行っておりますので、ご確認をお願いします。資料3については以上です。

続きまして資料4をご覧ください。第2次浜田市総合振興計画前期基本計画の掲載目標の進捗状況となっております。これにつきましては、今年2回目の評価となっております。2の調査結果(1)概要をご覧ください。進捗評価の基準を記しております。6年間の計画期間におきまして、目標達成に向けて計画どおりに進んでいるかどうかを示すものであり、それぞれAは計画どおりかそれ以上、そしてB以下はそれよりは遅れているということでご理解をいただければと思います。(2)「目標」の進捗状況の一覧表については、総合振興計画に基づき一体的なまちづくりである部門別計画、それから地域の個性を生かしたまちづくりである自治区別計画、その項目を評価別に一覧表にし、合計139項目を集計しています。合計欄をご覧くださいますと、A評価が66項目、B評価が39項目、C評価が26項目、D評価が8項目、E評価がなしでした。なお、進捗評価対象外項目は、昨年度に引き続き全国の統一調査から項目立てをしているところですが、学力調査そのものから質問項目が削除されたということで対象外となったところ。なお、今年度からは市独自で調査を行い、来年度以降の進捗評価を再開することとしています。

続いて2ページをご覧ください。進捗評価について昨年からの変更点を先にお知らせします。昨年は策定時の現状値から数値が下がった項目については、右下がりの矢印を「平成29年度現状値」に記していました。これを今回からは平成28年度から当該年度の現状値、目標達成率、進捗評価、この3つの項目を記載して年度ごとの推移が分かるようにしています。また、目標達成した項目については、〈目標達成〉と記載しており、今後の取組欄では、平成30年度以降の目標数値を記載しています。加えまして、進捗状況欄に平成29年度の実施状況や達成率と評価に乖離があるもの、例えばマイナスの達成率なのに評価はCといった場合に、その具体的な理由を記載することとしています。

これから平成28年度と29年度で進捗評価A B C D評価が下がった項目とD評価の項目について、基準に対して遅れているということになりますので、かいつまんで説明します。

まず部門別計画からです。6ページをご覧ください。「はまごちツープライス料理提供食数の増加」です。こちらは2つ分かれています。1,400円の部分についてはD評価となっており、2,800円の部分についてはB評価からC評価に1段階下がっています。続いて「宿泊客数の増加」です。こちらもA評価からC評価に2段階下げています。次に7ページの「新規学卒地元就職者数の増加」、こちらもBからCに下げています。同じページの「健康寿命(男女別)の延伸」ですが、2の女性の方をD評価としています。それから22ページをご覧ください。自治振興部門ですが、「U・Iターン者数の増加」をA評価からB評価にしています。こちらを見ていただきますと、目標の達成率が381.3%と上方修正をしていますが、A評価ではなくB評価としています。この理由は、UIターン者数は浜田市が各種支援制度で直接関わった方々の数としていますが、進捗状況の欄をご覧くださいますと、島根県人口移動調査において県西部の市の状況を合わせて記載していますが、浜田市については、28年度256人の実績に対して昨年度は212人と減少し

	<p>ているということも踏まえA評価ではなくB評価としています。それから「U・Iターン相談件数の増加」はA評価からC評価に下げています。23ページの「婚活イベント参加者数の増加」もA評価からB評価にしています。こちらも先ほどのU・Iターン者数と同じように目標は達成しており、上方修正もしていますが、AではなくてB評価としています。これも進捗状況をご覧くださいと、イベントの参加者数自体は達成して上方修正をしていますが、最終的な目標である成婚組数が一昨年から昨年にかけて減少しているということを踏まえB評価にしているところです。</p> <p>続いて自治区別計画です。24ページをご覧ください。まず浜田自治区の「地区まちづくり推進委員会の組織率の向上」はAからB評価にしています。続いて26ページをご覧ください。旭自治区です。「宿泊客数の増加」についてはD評価としています。次に弥栄自治区です。「入込客数の増加」そして「宿泊客数の増加」いずれもD評価としています。また、「UI ターン世帯の増加」についてもAからB評価に下げています。29ページの三隅自治区です。「従事者用宿舎の運営に取り組む地域や団体の増加」はD評価としております。</p> <p>一点補足ですが、同29ページの「健全な実質公債費比率の確保」は昨年度と一昨年度に同じ数値が入っていますが、平成29年度の決算数値がまだ未確定ですので、確定後本日の議事録等と一緒に皆様に報告したいと思います。以上、総合振興計画の進捗状況についてご説明をいたしました。</p> <p>続きまして資料5をご覧ください。浜田市定住自立圏共生ビジョン成果指標の進捗状況になります。本ビジョンの成果指標ですが、先ほど申しましたとおり全ての項目を総合振興計画から転記しておりますので評価についても総合振興計画と同様の評価としております。個別の項目についての説明は重複しますので割愛させていただきます。</p>
<p>地域プロジェクト推進室長</p>	<p>続きまして、資料6の浜田市まち・ひと・しごと創生総合戦略掲載目標の進捗状況について説明させていただきます。このまち・ひと・しごと総合戦略につきましては、先ほどの総合振興計画から人口減少対策に当たるものを抽出して策定をしています。こちらの進捗状況の調査結果ですが、2調査結果の(1)「基本目標」の「数値目標」では4つ目標を掲げています。1点目に産業振興と企業立地による雇用の創出、2点目に子供を安心して産み育てる環境づくり、3点目にU・Iターンや定住の促進とふるさと郷育の推進、4点目に地域の特性を活かした安心して暮らせるはまちづくりという4つの大きな柱としており、それぞれに目標を設定しています。進捗状況は、総合振興計画と同様のABC評価をしています。昨年度のAB評価合計で71.7%が今年度は76.5%となり、概ね昨年と同様の取組となっています。そして(3)地方創生推進交付金は、国の地方創生交付金を活用した事業の進捗状況を表したものですが、内容については後ほど説明いたします。</p> <p>それでは、多くの項目が総合振興計画と重複しますので、総合戦略独自の項目、かつD評価など問題の見受けられるものについて、掻い摘んでご説明いたします。2ページの「企業立地優遇制度による雇用創出数(*)」についてですが、こちらは修正点があります。「企業立地優遇制度による雇用創出数」のところで、29年度の現状値の16人が13人になり、それに伴い達成率が16.0%から13.0%になります。こちらが進捗評価D評価ということになります。同じように「新規学卒地元就職者数」も同様に修正があります。数字が抜けて空白のところ43人が実績になります。そして達成率が△42.4%になり、昨年度以前はB評価だったところ</p>

が今年度はC評価にしております。

続きまして、総合戦略の60項目としまして8ページをご覧ください。【基本目標2】子どもを安心して産み育てる環境づくりの項目では、基本的な大きな目標として「出生数」という項目を掲げています。31年度までに年間の出生者数450人というのを目標に掲げていますが、平成29年度は400人を割って396人。平成28年度も400人を割って392人ということで、4人増えていますが、目標に対してはD評価ということにしています。その隣9ページの「社会増減数」は、【基本目標3】U・Iターンや定住の促進とふるさと郷育の推進という大きな目標になります。昨年度は表にあるように社会減ですが△118人と27年度と比べて大きく減を減らしてA評価だったものが、29年度中は△473人と数字が悪化したところであり、進捗評価はDとしております。総合戦略の項目は以上ですが、最終の15ページをご覧ください。こちらは国の地方創生交付金を活用した事業について、同じようにABC評価をしています。1点目の「地方deしごと支援連携事業」いわゆるシングルペアレント事業を含んだものですが、移住した世帯数をB評価、移住相談の件数はC評価、ネットワークに新たに参画した自治体数はA評価としています。【ユネスコ和紙ブランド推進連携事業】は、浜田の石州和紙と他の本美濃紙、それから細川紙といったユネスコの認定を受けた和紙で連携をして行う事業ですが、こちらはそれぞれ設定した項目はA評価としています。

総合戦略の個別の目標はおおむね7割強をAB評価としていますが、柱となります大きな目標の出生数、人口社会増減数に効果が上がっていませんので、人口増減数について少し分析したうえで総括することとしております。資料7別紙をご覧ください。「浜田市の人口における社会増減の状況」ということで人口減少の状態を28年と29年で比較・分析をしています。1ページ目にはこの5年間の住民基本台帳における人口の推移を載せてあり、4月から3月末までの年度で括っています。28年度は当初56,159人から転入転出の社会増減で△122人、その前の3年を見ていただきますと相当改善をしています。それから出生・死亡の自然増減では死亡が多く△484人で年間△606人の減となっています。それが29年度は社会増減が△473人、自然増減で△494人となっています。2ページでは、非常に異動の多い4月、3月の影響を避けるため1月から12月で括った人口の推移としています。少しなだらかになります、先ほどと同じような増減をしており、平成28年は社会増減が△212人、平成29年には△397人という状況になりました。その内容につきまして、島根県人口移動調査の異動理由などを調べたものが3ページになります。平成28年度につきましては、転入が1,923人、そのうち転勤が472人、転出が486人、その差が社会増減で△14人というように異動理由ごとに数字を出したものです。同様に真ん中の表が平成29年度中の異動につきまして転入転出を比較したものです。28年と29年の差がどこにあるかということで、3点目に増減を表していますが、これを見ると①転勤、②就職、⑦退職・家族の事情などで転入転出があり、そうした職に関するもの、番号①～⑧の下にある同伴者は一緒に引っ越してくる家族などが入りますが、同伴者の数字が大きくマイナスになっています。そして、この転入と転出の合計を見ますと転入が△186人、転出が±0ということで28年29年数字の悪化した理由というのは転入が減ったということが大きいというのが見て取れます。1ページの5年間の推移につきましては住民基本台帳から数字を拾っておりますが、この異動理由につきましては島根県人口移動調査という数字は異なるものですが、ほぼ同じ動きを示しております。そうした異動理由と共に最終のページのところでは、県内と県外に分けて転

	<p>入転出の状況を確認しています。まず、左上にある棒グラフが県内の転入について28年と29年を表したもので、その右側には転出につきまして28年と29年を表したものです。県内の異動で見ますと、28年中の社会増減△64人から29年中の社会増減は△77人。そうした△64人から△77人とあまり社会増減について変化はありません。その下の県外のところを見ますと、平成28年の社会増減転入転出の差は△93人、それが平成29年は△266人と数字が変わっております。何が大きく変わっているかといいますと、転入の28年と29年の差が△144人ということで転入の減が大きい、更には県外からの転入が減っているところが見て取れます。人口減少につきましては以上のような分析を行ったうえで総括をしています。資料7の方をご覧くださいと思います。</p>
<p>政策企画課長</p>	<p>2ページの【表1】目標達成率別の状況をご覧ください。合計欄を見ていただきますと、目標達成率75%以上となっている項目が48項目で34.6%となっています。逆に25%未満につきましては53項目で38.2%となっています。3ページにつきましては平成28年度の実績となっていますが、結果だけ見ますと28年度から29年度にかけてはこの目標達成率75%以上が増えて25%未満が減っているということから順調に進んでいます。また【表2】の進捗評価別状況ですが、これについてもA評価又はB評価が105項目ありますが順調に進んでいます。</p> <p>一方で先ほどの分析の結果説明にありましたが、基本構想に掲げます人口、あるいは出生数が少し増えましたが、社会増減数については非常に厳しい結果となりました。この社会増減につきましては、就職あるいは転勤など職に関係する理由が多くあり、同伴者を含めると主に県外からの転入が減っていることが見て取れます。また求人と求職者の希望業種の不一致あるいは景気の良い都市部、都会地に人口が留まり地方へ移動していないことが要因として考えられます。</p> <p>これからも地方で働く人材確保はやはりますます重要になっていくと思いますが、多様で働き甲斐のある就職先の増加や新卒者、UIターン者などの市内への就職の促進、事業承継など含めて、支援あるいは政策に力を入れていく必要があります。また人口減少に歯止めがかからないということは日本全体の傾向であり、容易ではありませんが、この総合振興計画で掲げた将来像の実現について総合的な計画を進めていくことが重要であり、また既に目標を達成したのものについては目標値を上方修正して事業の更なる充実を図りながら今後も進捗管理を行っていきたくと考えています。</p>
<p>質疑応答について</p>	
<p>会長</p>	<p>はい、ありがとうございます。次第の1から5について一括して説明をいただきました。これからは、この議題1から5について委員の皆様からご質問やご意見がございましたらお受けしたいと思います。よろしくお願いたします。</p>
<p>佐々木玲委員</p>	<p>資料4の「子どもを安心して産み育てる環境づくり」ですけど、妊娠期から子育て期までの切れ目のない支援を今後の取組としてやっていくということですけど、妊娠期からということで、浜田にIターンで来られたり、転勤で来られた方が子供を産もうと思ったときに民間の産婦人科が1軒、産むことができるのが医療センターしかない。検診も民間の産婦人科1軒、これだと朝行って自分が受診するのが夕方になって非常に辛いと言うことを聞いたりしますけど、浜田に来て安心して受診が出来て産むことができるという体制づくりについての支援というのですかね、安心して産み育てる分のまず産まない人口が増えないので、産める環境がどういう風に支援を今後されていくのかというところを一つお伺いし</p>

	<p>たい。もう一つは、17 ページの「公共交通の充実」のところですけど、今後の取組として『それぞれ地域の特性に応じた交通体系の構築を目指す』とありますけど、なかなか路線バスも乗り手がない、コミュニティバスもなかなか乗り手がない状況ではありますけども、路線バスに繋がるコミュニティバスの運用であるとか、地域の賑わいを一生懸命やろうとしているところへコミュニティバスと路線バスをどう繋げるかということからお客さんを連れて来るということも含めて。これざっと目標達成をしていないのが、そこに対象となる要対象者の減少があるからしょうがないという書き方が進捗状況の中にありますけど、当然住民の足としての位置づけではあるんですけど、賑わいをもたらせようとしている地域、小さな拠点づくりで頑張ろうというところに外部からお客さんも路線バスに乗って、コミュニティバスに乗ってやってくるという連携の取り方ですかね、そういう研究であるとか交通体系も地域の特性に応じた交通体系の構築を目指すことについて、そこら辺はどういった風に取り組むのかなというところで、我々住民の立場からしてどこにどういう風に相談を持ち掛けて、進めていけばいいのかなということを教えていただければありがたいと思います。以上2点お願いします。</p>
健康福祉部長	<p>1 点目、子育ての関係、安心して子育てできるということで、委員さんが言われたように一軒しか産婦人科医院はありません。昨年も非常に行列を作って寒い中、あるいは雨の中待っておられるという話を聞きましたので、その病院に行って、何かいい方法はないだろうかといういろいろ相談してまいりました。島根県の保健所にも関わっていただいて、予約制にしようかという話まではあったのですが、恐らく、そこまでたどり着いていない現状かと思います。もう一点、出産に関して医療センターで 600 人位は対応できるということを聞いておりますので、そういうところは対応できておると思っておりますけども、やはり最終的には待ち時間のこととかいろいろあると聞いております。究極は産婦人科のお医者さんを増やすしかないだろうという気はしております、島根県と一緒に島根大学へお願いに行き、あるいは今医療センターには山口大学から来ていただいておりますけども、もう少し派遣してもらえないかというようなところをお願いしているところです。もう一方では産婦人科を開業していただくというのも可能であればということですが、そういった可能性を当たりながら今努力しているところですが、なかなか実現には至っていないということで苦しんでいるところです。</p>
地域政策部長	<p>公共交通のご質問についてお答えします。今こちらにありますように生活路線バスや予約乗り合いタクシー、非常に使いにくいというのは、やはり特に中山間にお住いの交通弱者の方がバス停まで出かけて行って乗られるであるとか、便数などを考えるとなかなか使いにくいご事情があるのだらうと思います。こうした中で、地域によっては地元で有償のタクシー事業を立ち上げて操業開始されているところもあります。また、市としては敬老乗車券などの充実にも努めていますが、やはり多くの方がお持ちの考えはドアツードアで、簡単に自分の行きたいところに行けるような交通システムをお望みだらうと思っております、そのような組み立てができるかというのは、今年、公共交通の再編計画を大体的に見直すということで多くの有識者の声を聴きながら見直していきますので、先ほどのご指摘の件ではそういう視点でどうしていくのかをしっかりと議論していきたいと思ます。</p> <p>また、一方で日常からちょっと離れて賑わいのある色々な事業に対して、お客さんをどう引っ張ってくるかというのは、これまた普段の生活路線のありようと</p>

	<p>少し違う視点も必要と思いますので、今ご意見いただきましたことは参考にさせていただきますたいと思います。</p>
賀戸委員	<p>産科の件ですけれども、助産師さんの育成というお考えはないでしょうか。先生といってもどうしても人口の少ない、出生率の少ないところでは、採算が合わないというのは大変失礼ですけれども、なかなか大変だろうと思うので、簡単な健診ができる助産師さんを養成されたらと思います。</p>
健康福祉部長	<p>はい、ありがとうございます。おっしゃるように助産師さんの育成は大事だと思っていて、今色々奨学金制度を持っていますが、看護師、保育士も持っていますけれども、それ以外の分野がありませんのでいろいろ検討させていただきます。</p>
玉置委員	<p>これだけの資料をまとめてくださいます、ありがとうございます。前回と似たような感じを得ましたのは、このABCの評価というのはもちろんパーセンテージを言っは数学的にはいかないので、それぞれの達成の難易度に応じて色々判断しておられるじゃないかなと思いました。でも一応ABCDをつけていただいたのは大体の目安としてどのくらいのものだったのかというのは役に立つと思うのですが、このEというのはゼロですよ。ゼロでいいのですけれども、いらないじゃないのかなと思うのですけれども、DとEの区別があまりないと思います。</p> <p>例えば資料4の教育部門で国の調査の質問がなくなったので実施できなかったという但し書きがありますけれども、これですと、しいて言えばEですよ、実施が出来なかったわけですから。でもそれはやっぱり色々理由があるわけですからこのような注釈を入れれば、私はこのEというのは、いらないのではないかと思います。たったの1行あるかないかということで小さいことかもしれませんが。そのうえで、やはりざっと拝見するところ、この前も申し上げたかもしれませんが、イベントとか説明会などそれを開催数で計算してパーセンテージを出しておられますけれども、やはり開催数だけではわからないことがいっぱいあると思います。ただ、参加者数で出ているところもありますけれども、開催数よりはよろしいかと思ひます。どのくらい多くの方が参加されたか。さらに、できるかどうか分かりませんが、表のコメントをもっと増やしていただいで、やはり参加者がどのような感想を持たれたのかについて、私たちが参加して良かった、ためになったというようなことがわかるようなコメントを色々つけていただくと、もっと評価が生き生きとしてくるのではないかと思うのです。ここの回数や参加者数だけでは評価できないことがいっぱいあるように私は思いました。例えばですね、14ページの「歴史・文化の伝承と創造」の項目でございますけれども、まず一番上の「石央ホール利用者数の増加」次が「市内美術館における創作活動等の受講者数の増加」3番目が「文化財の指定・登録件数の増加」とありますけれども、例えば石央ホールに関して言いますと、確かに半年近く改装工事のため閉鎖されていたにも関わらず、これだけの利用者が出たということでBをつけられたと思います。去年は映画館がないということで、もっと映画が見たいという声が多く、浜田市がBDDの映写機を買ってくださったのです。非常に高価で100万円したそうです。それで映画の上映がもっとできるようになりました。私は石央シネマクラブを立ち上げたメンバーの一人ですが、去年はお陰様で1か月置きに映画を上映することができましたし、今年ほぼ毎月のペースで映画を上映することができています。非常にうれしいという声を聞いているので、利用者数という</p>

	<p>数字だけでは表せない変化を書きいただければいいと思います。また、歴史文化の伝承と創造という面ではこの春から10回ぐらいに分けて、来年が浜田藩開府400年ということで市の歴史をいろんな方が説明してくださる講座がありまして、毎回大変盛況でした。会場を一時変えようかと主催者が思うほど盛況であったようです。本当に市民の方の関心が高いですね。ただ美術館でどうした石央ホールでどうしたではなくてそれ以外のところでも、個人の郷土史家が街歩きとか歴史散歩とかいろいろやっておられます。市民の関心は非常に高いと思いますし、そういうことも文書で書いていただきたい。ここの指標にはないですけどもそういうことができるかどうか知りませんが、数字や回数、参加者数だけではわからない事実をもっと宣伝していただきたいなという気がします。今は一例ですので後は省略いたします。もう一つ、7ページの健康づくりのところ、私再三申し上げて申し訳ないです。けれどもこの健康寿命の数字がおかしいですね。今回たまたま健康寿命の延伸のところ、進捗状況のところを書いてあります「平均寿命は延伸しており、特に男性は島根県より高い状況である。」浜田市の男性の平均寿命は80.44、県が79.85なので浜田市が高いということですね。「一方、健康寿命は、」云々とありますが健康寿命は81.99ってこれはどう見てもおかしいですよ。健康寿命というのは、大体平均寿命より10年くらい低いですよね。それをもっと長くしようというのが健康寿命の延伸の目標であるわけです。どうしてこういう数字が出てくるのか、3回目か4回目ぐらい申し上げた気がするのですが、平均寿命が80.44なのに健康寿命が81.99だというのはあり得ないですよ。ここはやはり訂正の必要があるのではと思うのですけどいかがでしょうか。</p>
<p>地域政策部長</p>	<p>最初に評価の仕方を総合的なことでお答えします。まず、こちらに掲げてある数字は、策定したときにその数字で追っていきと皆さん方で共有させていただき、これを前期の基本計画の指標に掲げておりますので、それはそれとしてきちんと追わせていただきたい。たしかにイベントの参加数よりはもっと実態をつかみやすい数字があるということは承知いたしているところで、ここに掲げている数字は作成当時のものですのでまずは追わせていただきたい。ただ、その実態が少し異なるじゃないか、よくわからないという部分については、今回は進捗状況だったり、今後の取組のところにもコメントを昨年よりは少しボリュームを増やしておりますけど、かなりその部分をご指摘のとおりちょっと特殊な点だったり、よく見える化に繋がる部分についてはもうちょっと充実させていきたいと思っています。</p>
<p>健康福祉部長</p>	<p>ご指摘ありがとうございます。健康寿命と平均寿命というところですが、平均寿命というのは、今0歳の子が何歳まで生きるかというものと考えていただければと思います。健康寿命というのは、介護にならずに何歳まで生きるかというような数字になります。ただし、国が言っている健康寿命、県単位で例えば島根県の男性が38位とか女性が5位だとか出していますが、これは国の方が行っております「国民生活基礎調査」というものを全国的に行っているのですが、この中の質問の中に『健康上の問題で日常生活に何か影響がありますか』という項目があります。ここで「ない」とか「ある」とか回答してもらおうのですが、この回答を持って健康寿命のラインが引かれるという仕組みになっております。ただ、この国民生活基礎調査というのは全国的に行われるのですが、浜田市で言うと確か100人前後の調査しかありませんので、国の方はそういうこともあって島根県全体の調査結果を基に島根県の健康寿命の数値を出している。ですから全国的に県単位</p>

	<p>でしか健康寿命の数値を出していません。そういうことがありますので、県でいろいろ工夫をされて各県独自の出し方で健康寿命を出しているのが実態でございます。島根県の場合では、65歳の方が何年間自立した生活を送れるかという考え方で数字を出しています。65プラス16年の期間を自立して送れるとすると81歳というのが健康寿命というような考え方です。要介護状態になった時を以て健康寿命が終わるといような、島根県はそういった考え方の出し方をしているようですので、国と島根県、ここで使っています数字がちょっと違ってまして、大変分かりにくくなっているようなところなんです。委員おっしゃるように、普通に考えますと「なんで平均寿命の方が短いのだろう」というのはごもっともで、私共もそう感じる人が多いですが、先程申したように出し方が0歳を基準にするか、65を基準にするかといった部分と、国と島根県とでは出し方が違うということで、数字としては正しいということでご理解をいただければと思います。</p>
<p>会長</p>	<p>はい、ありがとうございます。健康寿命については、このように説明をいただくとなるほどというようになりますが、何も説明なしにこう2つ並べられますと誤解を生じるということなので、特に今年度については進捗状況のところはかなり書き込みがあるが故に分かりにくくなっているのかもしれないので、少し注記をしていただければありがたいなというように思います。それから玉置委員から指摘のあった、「目標というか測れない部分があるじゃないか」というご指摘であったと思います。確かにそういう側面があります。回答いただきましたように、策定時に設定したものは、それで追っていくということが基本だろうとは私も思います。それ以上に工夫ができるかどうかは分かりませんが、このほかの項目をどう評価していただくかは、これから研究課題になるのかなということと、策定時は一応これで良かろうと思って目標を設定しているわけですが、やってみるとうまく評価が測れていないという部分があるかもしれないので、それは次回後期計画に向けての研究課題になっていくのかなと私は思っています。</p> <p>そのほかの関係でいかがでしょうか。</p>
<p>木村委員</p>	<p>2点ほど聞かせてください。資料4です。20ページのところに「自主防災組織の組織率の増加」に書いてありまして、評価がAからCに、今年度はCに落ちていることですが、こういう落ちているところはあちこち見受けられるのだけでも、その中に説明書きがきちんとしてあって、分かるものも、例えば宿泊者数の減少だとかそういうものについてはどういう理由でこうなったか分かるように書かれている。今言う「自主防災組織」これについては、すごく評価が下がっている。その組織率については前年度と同じ数値なのに2年目の今年度については大きく評価が下がっているわけですね。ここについては説明をいただきたい。2年目だから伸びなくてはいけないのに伸びなかったということじゃないかというふうには思うのだけでも、ちょっと代表してね、大きく評価が落ちたところを代表して20ページの「自主防災組織」、これについてこういう評価になったのは何故か、ということについてご説明いただきたい。</p> <p>もう一つは、同じく評価が下がったところで、21ページで「地区まちづくり推進委員会の組織率の増加」の評価が書いてあるわけですね。これについても、実際には浜田地区の方で一つ組織が出来たけども、評価としてはBになっています。AからBに下がっている。これについても先程私が言いました「多分こうだろうな」と思うのだけでも、説明いただきたい。ただ、ここには浜田の地区と自治区と書いてあるので、浜田自治区は一つまちづくりが進展したということが書かれ</p>

	<p>ております。これについて、今 15 地区ほどまちづくりは出来上がっているということが書いてあるので、これについてはいくら位、実際にはまちづくりを進めようとしている目標の数字としてどの程度あるのかというのを教えていただきたいと思っております。以上 2 点、お願いします。</p>
総務部長	<p>自主防災組織については、今、木村委員さんからありましたように評価 A から C に下げておりますのは、実際は組織率で言いますとわずかではありますけど増えておりますが、目標に対しての伸びがないということで、C ということにさせていただきました。現実的には書いてありますとおり、自主防災組織、今、西日本大災害とか浜田市でも先般の台風とか地震とかいろいろなことで、自主防災の組織率の向上というのは喫緊の課題だと思っております。実際今、自主防災組織は 5 つの自治区で言いますと金城・三隅はすでに 100%、浜田と弥栄はまだ組織率が上がっていないという現状で、その努力を早急にしなければいけないということをおもっていますが、評価は目標に対しての伸びがないということで C という評価をつけさせていただいたということです。</p>
地域政策部長	<p>続けて、地区まちづくり推進委員会の組織率についてですけれども、平成 28 年度に新しく設立した団体が 3 地区か 4 地区あったと思っております。それに比較して 29 年度は 1 地区に留まったということで、確かに増えてはいますけれども、そもそもこれは目標値を 90% にもっていきたいという中で、現状 71% に留まっているということです。評価については B 評価とさせていただきました。今全市のまちづくり推進委員会の組織率だったと思っておりますが、浜田自治区を除く自治区は 100% 推進委員会が出来上がっています。浜田自治区については、町内の数でどれだけカバーしているかといいますと、現時点で概ね半分、50% 程度ということになっていますので、これから積み上げていくとしたら浜田自治区の組織をどんどん立ち上げていく、これに尽きると思っております。</p>
会長	<p>よろしいでしょうか。関連してでも、他の観点でも委員の方からありますでしょうか。</p>
大谷委員	<p>一点、20 ページの 3 の消防・救急体制の充実の中の「救急救命士の資格取得者数の増加」ですが、毎年 1 名ということで、先般も浜田の地域医療を守る会の時に、消防長さんから救急件数がものすごく増えとるという中で、他の項目によっては上方修正をされているものもあるのですが、現状で行きますとこれで大丈夫かなという不安もあるのですが、上方修正をする必要はありませんか。</p> <p>それともう一つ、今後の取組の中で新規採用職員の有資格者ですね、既に資格取得している人を含めるような感じで書いてあるのですが、実際に採用時にこの対象となられた方はおられるのでしょうか。</p>
消防長	<p>まず上方修正をしないのかということですが、昨年 29 年度は、これまで浜田消防が救急業務をした中で、最高の件数、3,025 件を記録いたしました。今後もこの高齢化社会によって当面、この件数は、人口減少に伴っては減るけども、そう変わらないだろうと言われております。浜田消防におきましては、現在通常運用で 7 台の救急車を運用しております。これに対して出動の際には必ず救急救命士を最低 1 名は充てること。通常この救急車には 3 人の隊員が乗って救急車を運行するということが定められておまして、その内の 1 名は救急救命士を乗せようという考えにしております。本来は 3 名とも乗ったら素晴らしいですが、そういったことで運用してまして、7 台を運用しますと今のところ 28 名という数字が最低限必要です。またこれに合わせて、119 番を受ける際に口頭指導というのがあ</p>

	<p>りまして、救命士と合わせますとこれから先の目標を 38 名というところでもって、毎年 1 人ずつの養成に取り組んでいるところです。これに従うとおおむね 38 名に達するというところですが、先ほど言われました採用枠がどうなのかというところですが、救急救命士も年齢が 50 を超えたりしますと、やはり若干身体的な能力の衰えがありますので、そうした救命処置が難しくなるといったこと、また健康上のこと、また救命士資格を持った職員の部署の変更といったことがありますので、消防本部としてはこの数をもっと増やしたいというのが正直なところですが、何分その要請に対して、一人当たり年間 300 万は必要ということになるとなかなか 2 人 3 人ということにはなりません。ということで現状どおり当面は 1 名を目標とし、併せて採用試験において救命士枠を設けさせていただきたいと思っております。昨年からは救命士枠を設けていますが、昨年度は応募者数が 0 でした。また今年も引き続きその枠を設けていくという思いです。</p>
佐々木委員	<p>資料 6 の 6 ページの「クルーズ船の対応」なんですけども、今後の取組の中で外国船籍の寄港に対してですね、受け入れ態勢、ブラッシュアップをするということになっているのですが、帆船が来たりしたときなんかには水兵さん見たいに帽子かぶったり水平部隊のような方がたくさん歩いていますけども、看板がなかなか浜田はどこ見たらどこに行けるっていう、どこでバスに乗れるか、もうちょっと親切なロシア語とか英語とかの標示がもっとあったりするといい。そういうところで体制強化を図るとここに書いてあるのかということ。それからあれだけお招きをして来ていただいた大型客船のお客様が本当に満足して「あ〜、あそこ良かったな」というふうなところで口コミとか SNS とか広がっていくような体制が。この間、大型船イタリア船籍ですかね、地元紙の記者のコラムのところで厳しく受け入れ態勢についての指摘がありましたけれど、そういうことも含めて、どういう風に取り組まされていくのかちょっと教えていただければと思います。</p> <p>もう一つは、7 ページですが、「合宿等誘致人数の増加」を目指しておられて今後の取組の中にも「合宿誘致等の各種施策に取り組む」とあるのですが、これは県外から来られる方、合宿だとマイクロバスとかで来られると思いますが、浜田道の無償化とかについて、そういうことを今後取り組まれる施策の中に含まれているのかなど。できればそういう様な来やすい状況、環境を作るという面で、手っ取り早いのは浜田自動車道の利用そういうことも考えているのか。できれば佐々岡選手も浜田市の出身でもあったし、カープ女子の合宿が浜田でできればいいなと思っていますので、少し教えてください。</p>
産業経済部参事	<p>まずクルーズ船についてです。今年初めて外国船籍の大型客船「コスタネオロマンチカ」が入港、今年 2 回入港しましてもう一回 10 月に入港します。これまでもクルーズ船の入港はありましたが、これは日本船籍がすべてですが、今回外国の船籍が来るということで、島根県・浜田市・近隣市町村挙げてその対策について準備を進めてきました。まずは第 1 回目が日本一周クルーズだったものですが、外国の方もたくさんおられたということで、今佐々木委員がおっしゃるように、まず 1 回目は様子見ということで、一応準備はしたのですが、やはり外国の方の対応というところは色々課題が出ました。それを踏まえて今回の日本海クルーズがあったのですが、これが逆に日本海ということで日本人の方が多かったため、日本人の方をおもてなしということになりました。今度 3 回目の 10 月は日本一周が来ますのでそこでまた外国人の方が来られます。ブラッシュアップということですが、色々県の方や近隣市町村の方と課題があり、</p>

	<p>看板の設置ということもありましたし、いかに外国の方に浜田の良さを紙漉きとか温泉とか石見神楽とか、浜田の良さを短い滞在期間でいかに見てもらって、特産品も見てもらって、これに満足していただいた方が、SNSとか口コミとかを使って欧米の方々に広めていただく。浜田が狙っている広島に来られる欧米人の観光客が大変多く、広島は大体一泊すれば見て回れる所でもあり、そこからもう一泊浜田へ引っ張ってきたい。そのようなインバウンドを狙っています。ということで、おもてなしはしっかりできるように、今は回を重ねてしっかりその辺を毎回研究していますので、そんな悠長なこと言っとるなというお叱りもあるかもしれませんが、しっかり対策を立てていきたいと思えます。ただ、これが外国船ということでなかなか融通が利かないところがあり、こうしたツアーは外国の船会社が主導してツアーを立てられますが、そのツアーに行かれない方のうち浜田で降りていただいた方を浜田市内、近隣石見地域に行ってもらえないかというのが今最大の課題で、そういったところを踏まえて検討していきたいと思っております。</p>
<p>観光交流課長</p>	<p>合宿等の誘致につきましては、27年の約3,800人から28年約3,600人と下がっていますが、29年は上がっています。今委員さん言われるとおり浜田道の無料化を含めもっと来やすい態勢というところもありますが、これについては、県・国に対しても要望を行っているところですし、それを待っている訳でもないのですが、引き続きこの合宿誘致の件数についてはアップを目指して、浜田で特に大事なのは新規のお客様ですが、リピーターにいかに来ていただくところも大事かと思えますので、それについては引き続きPR活動を行い、ここにある大会前日の合宿利用の方に、大会に来られた方に合宿を浜田でぜひ利用していただけるように周知するであるとか、大口の団体客の皆さんにはこの辺のPRを進めていきたいと考えています。広島からのお客さんについては、今合宿で約50%、広島県内の皆さん、広島市内を含めて県内の方は、約半分の方が浜田道を利用しておられるという現状もありますので、その辺はまた対策等考えていきたいと思えます。</p>
<p>玉置委員</p>	<p>色々細かい質問でございますけど、森を見て木を見るだけじゃなくて、森を見てみたいのですけれども、この進捗表をざっと拝見しますと、先ほど議論のありました人口の減少というのが一番深刻な問題かと思えます。そのほかには今クルーズ船とか合宿の問題とかを含めまして、やはり外からの観光客に対する食事の面、はまごちツープライスもDになっていますし、それから一般的なおもてなしというところが、まだ大きな課題かと思えます。宿泊数もあまり増加してないようですし、ただ、心強く思いますのが、生産部門の水産業農林業の方は、比較的Aがざっと並んでおりますので、非常に着実に前進しているのかなという印象を得ました。前回佐々木委員がお尋ねになったと思えますけども総合振興計画の基本方針である3つの柱がありますけど、私たちはこの一つが「浜田らしい魅力あるまちづくり」2番目が「協働による持続可能なまちづくり」、3番目が「近隣自治体と連携し県西部発展をリードするまちづくり」という3つの基本方針に私たちはどれだけ近づいているとお考えかをお聞きしたいと思えます。</p> <p>それともう一つは、会議に先立ちまして久保田市長に2つの質問をいたしました。そのお答えについて副市長さん、お願いいたします。</p>
<p>副市長</p>	<p>玉置委員さんから予め市長に2点ほど質問されておられ、市長から今日出席に及びませんので、回答の方については私の方からとさせていただきます。1点目は「浜田において市長が最も大切に思ってこれからも守っていききたいと思われる</p>

	<p>ものはなにか」ということでご質問をいただいております。市長からは「浜田市民、特に将来を担う子供たちにふるさと浜田の良さを知り、愛着を持ち、浜田を誇りに思っていていただくこと。ふるさと教育の充実をしっかりとしていきたい。」という回答です。2点目は「浜田について市長がぜひ変えたい、無くしたい、変革したいと思っておられることは何か」ことのご質問でございました。市長からは「外から来た人に対し『浜田には何もない』、地元の子供たちに『浜田に居ても仕方がない』、新しく何かに取り組もうとする人に『どうせ失敗するよ』といったようなことを言わないでほしい。浜田の良さ、魅力をアピールし、新しいことへチャレンジをする人を是非応援していただきたい」ということが市長からの回答でしたのでお答えをさせていただきます。総合振興計画まだ2年目でございますので、これからいろいろなご指摘もいただいておりますが、進捗状況の報告については色々工夫をさせていただかなくてはいけないとだろろうと思っております。A・B評価が75%近いという部分でするので構想に向かって着実に進捗はしているだろろうと思っておりますが、最初のご挨拶で申し上げましたように、基本の指標であります人口動態の部分について、29年度については前年度に比べますと相当減少幅が大きくなっておりますので、この部分についてはしっかり分析をさせていただいた。理由として、県外から就職して中に入ってきてこられる人が昨年度に比べると少なかったということが一つの分析の中では出ていますが、実際はどうなのかという部分はもう少し詳しく調べないとわからないと思っております。人口減少の幅を何とか縮めたいという取り組みをこれからもしていきたいと思っておりますので、よろしく願います。</p>
会長	<p>大きな目標に対してどのように私たちは近づいたかというその評価、この度資料7として進捗評価についてということで、事前に作成していただいた。満足がいく仕上がりかどうかは別のもので、一方で前進したのかなど。まだまだ改良の余地が多分にある、それは今後できれば改良していきますが、次年度以降に向けて改良していければと私は思っているところです。</p>
賀戸委員	<p>はじめてなもので、この評価は担当者がその課の方と相談してつけられている評価かということと、もう1点は、行政職員だけでは評価が上がらない項目がたくさんあると思っておりますけども、それに市民をどう巻き込んでアップを考えられているかということ、2点についてお願いします。</p>
地域政策部長	<p>評価の付け方ですが、これはまず実際の担当者が数値目標を掲げているものについては、進捗状況を数字として見て、その上でさっき玉置さんが言われましたように数字などに表れない要素なども加味しながら今度はA評価、B評価というところを見ていきます。その全体的なものは、浜田市の中の市長をトップとした会議がありますので、そこで確認をした後に、叩き台とかまとめとしてこういう外部委員会にかけさせていただき、議会の方へ報告して意見をいただくという流れになっています。それから、行政だけでなかなか進まないというのは確かにその通りで、個々の事業について、やはり行政職員も地域に出向いて地域の声を聴きながらしっかり効果を上げていくことが大事だろろうと思っておりますので、今出ている職員それぞれ担当部員がいますのでしっかり受け止めさせていただき、その気持ちで今後も事業に取り組むたいと思っております。</p>
会長	<p>よろしいですか。そうしますと予定した時刻を超過していますが、私の方から1点。総括の②になりますが、『「C」以下の事業については取組を強化する必要がある。』という一文があってそれぞれご担当の方で工夫色々お考えいただいて今</p>

	<p>後の取り組みを記述いただいていると思いますが、「引き続き、・・・」というような表現も中には見受けられる。強化する必要があるのだったら、願わくはもう少し具体的に、「引き続き」ではないもう一つ、一歩先に進んだ何かを打ち出していただけたらなど。これは漠然としておりますが、希望としてありますので受け止めていただければと思っております。その他、委員の方、事務局の方から何かありますでしょうか。</p> <p>「特になし」</p> <p>色々ご意見、ありがとうございます。重大な問題というのは、指摘はそこまでは無かったかなという風には感じておりますので、皆様から頂いた意見について願わくは私と事務局にお任せいただいて資料の修正をさせていただきたいと思いますが、いかがでしょうか。</p> <p>「特になし」</p> <p>ありがとうございます。会長と事務局の方で資料の修正をさせていただきまして、修正版は後日送付させていただき、確認させていただきということとさせていただきます。</p>
3 その他	
(1) 事務連絡について	
会長	(委員報酬等の支払いについてお知らせ)
事務局	(委員報酬等の支払いについてお知らせ)
◆ 閉会	
会長	本日の予定は以上となりますが、委員の皆様、あるいは事務局から改めてご意見ありませんでしょうか。
副市長	長時間に亘りまして、熱心なご審議いただきましてありがとうございます。また先ほどご指摘を色々いただいておりますので、その部分についてはできるだけ解決する方向で検討していきたいと思っております。すぐにできるかという部分はありますが、その辺御料車いただかなければならない部分もあろうかと思いますが、どうぞよろしく願いいたします。
会長	ありがとうございます。皆様のご協力のおかげで若干予定時刻は超過しましたが、無事議事を終了することができたというふうに思います。改めましてお礼を申し上げます。では、以上を持ちまして審議会を終了いたします。 お疲れ様でした。

(午後 8 時 15 分閉会、所要時間 1 時間 45 分)